

症例報告（早期公開）

題名：「認知行動療法的アプローチを併用した作業療法により主婦としての役割の再獲得に至った人工膝関節全置換術の事例」

著者：早崎 涼太，齊藤 夢乃，甲斐 将平，久木崎 航，中村 充雄，中村 眞理子

要旨

主婦としての役割である家事の遂行に支障をきたしていた人工膝関節全置換術の事例を担当した。術後に生じた急性疼痛に対し、アイシングやリハビリテーションに合わせた服薬などを行っていたが改善せず、「痛くて何もする気が起きません」や「動く痛みそうなのでじっとしています」という発言を認め、活動量の低下が生じた。そのため、疼痛に対する認知行動療法的アプローチとして事例の趣味である折り紙をディストラクション（気逸らし）として作業療法に併用した実践を行った。疼痛への即時効果を認めるとともに自己対処法として定着し、主婦としての役割を果たすために必要な家事動作の練習に取り組むことが可能となった。結果、カナダ作業遂行測定において作業遂行上のニードである「家事ができる」は術前→術後において、遂行度は7→10、満足度は7→8へ改善し、主婦としての役割の再獲得に至った。事例の趣味で馴染みのある折り紙という作業をディストラクションとして用いたことにより、注意資源が折り紙に占められるとともに、疼痛に対する自己対処法として定着したと推察された。術後の急性疼痛に伴い、活動量の低下を生じる事例に対して馴染みのある作業活動を認知行動療法的アプローチとして使用することは、目標に設定した作業の遂行度や満足度の改善を促進する可能性が考えられた。

キーワード：疼痛，認知行動療法，人工膝関節全置換術，作業療法，目標